

| | 課題分析 | 授業改善策 |
|---------|--|--|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 文章を読むだけでは内容理解につながらない生徒が多い。 自分の意見が書けない。 漢字が書けない。 | <ul style="list-style-type: none"> スピード音読で速く読めるようする。教科書以外の物語での1冊読みを実施する。 単元ごとに自分の意見を短めの文章で書かせる。 一週間に一度小テストを実施する。 |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 「関心意欲」を持って、調べ方を考え＝「思考」、まとめる＝「技能」、そして「知識」を増やす力を付ける。 小学校段階における、社会事象に関する基礎知識が不足しており、偏りがある。 | <ul style="list-style-type: none"> 地理的分野では地図帳や地球儀を活用し、歴史的分野では資料や実物など視覚的教材を多く活用することで、社会科がより身近な事象であることを認識させ、考察させる。 小テスト、単元テストを実施し、確実に知識を定着させる。 |
| 数学 | <ul style="list-style-type: none"> 習熟度が高い生徒と低い生徒で、大きな差がある。全体的に、家庭学習が習慣化していない。 知識や技能を、発展的な問題の解決に活用することが苦手である。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えだけでなく、他者の考え方に触れる機会をつくる。単元ごとに学びを振り返る機会を設ける。 グループでの課題解決場面を設定し、話し合い、伝え合っていく中で課題を解決していく力を育む。 |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 全体的には、習熟度が高い生徒は少ない。低い生徒が多く見られる。 家庭学習の習慣はなく、宿題もやらずに、提出する生徒が多く見られる。小学校の計算の積み残しが多く見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> 家で学習する習慣がつけられるように、定期的に宿題や課題を出す。 授業前の集中力を高めるために、思考力問題を毎回行う。 |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> 響きのある声の出し方がつかめていない。 鑑賞で音色の違いを聴き取ることやイメージと結び付けて聞き取ることが弱い。 | <ul style="list-style-type: none"> 教科書の解説や図を使って視覚的に捉えられるようにし、範唱をもとに聞き比べを行い、発声が身につくようにする。 具体例を挙げ、聞き取りやすい音を使って練習してから実際に曲や音をきかせる。 |
| 美術 | <ul style="list-style-type: none"> 中学校では、造形的な視点の理解や計画的な制作が必要になるが、小学校では、身に付いていないため、まずはその基礎基本の習得を図る指導をする。 授業のルールを守らせ、達成感のある内容としっかりした授業規律を確立する。 | <ul style="list-style-type: none"> わかりやすく、誰でもできる内容からスタートさせ、スモールステップで学習を進める。作品制作では、完成後は十分な鑑賞とプレゼンテーションの時間を確保する。 常に授業規律が守られるように指導を継続していく。 |
| 保健体育 | <ul style="list-style-type: none"> 知識を技能に活かさないことや、体の動かし方や技能のポイントの理解不足により、技能が伸びてこない現状がある。 | <ul style="list-style-type: none"> グループ学習などの機会を増やし、動作を見たりアドバイスを受けたりすることで技能の習得を目指す。体の動かし方や技能ポイントについて実技書を用いながら、視覚的に確認できる場をより多く設定する。 |
| 技術・家庭 | <ul style="list-style-type: none"> 技術では、経験不足による理解力の差が大きく、作業の進め方に個々の力量の差が生じ、作品作りに影響を及ぼしている現状がある。 家庭では、技術面での差が大きいため苦手な生徒には、時間をかけて指導するなど、細かな指導が必要である。 | <ul style="list-style-type: none"> 作業に対する個別指導を細やかに行い、それぞれの知識・技能を充実させる。 経験値が足りていないので、作業を通して基礎的・基本的な技能を高めていけるように、失敗してもフォローができる体制づくりをしていく。 製作等が苦手な生徒に対して、グループ学習等でお互いに教え合うような形態を工夫する。 |
| 外国語（英語） | <ul style="list-style-type: none"> 自分について、英語を使い表現する上での基本的な知識が身に付いていない生徒がみられる。 1年の既習事項が定着していない生徒がみうけられる。 | <ul style="list-style-type: none"> 既習事項について意識させ、音読練習を中心に、基本本文の定着を図る。また単語や文法の小テストを実施し、基礎力の定着につなげる。 |

| | 課題分析 | 授業改善策 |
|---------|--|--|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字を部首に注意して、字形を整えて書くことが苦手である。 文章の特徴をつかんで読解することができない。 意見をもって作文を書くことが苦手である。 | <ul style="list-style-type: none"> 課題を通して部首の違いを意識できるようにする。 段落の役割を意識して文章を読む練習をする。 小グループの話し合いを行い、自分の意見を明確にした上で、文章に表現させる。 |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> 関心・意欲・態度については、社会的事象に関する関心を向上させる工夫が必要である。 社会という教科の特性は、新たなものが次々と加えられていくことである。歴史は積み重なっていき、政治、経済は常に変化している。そのようなことに関心をもつために、教員が実物資料を多く用意したり、タイムリーなニュースを準備したりして、社会的事象に関して、関心を高めることを考えていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> 地理的分野では地図帳や地球儀を活用し、歴史的分野では資料や実物など視覚的教材を多く活用することで、社会科がより身近な事象であることを認識させ、考察させる。 小テスト、単元テストを実施し、確実に知識を定着させる。 |
| 数学 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算でつまづく生徒が多い。 文章題など、やや発展的な問題に対して負の反応を示し、取り組みに諦めてしまうことがある。 | <ul style="list-style-type: none"> 毎授業や単元ごとに復習する機会をプリントなどで設け、苦手な部分をはっきりとさせる。 グループで取り組む時間を作り、話し合いながら問題を解決できるようにする。 |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 習熟度が高い生徒は少なく、低い生徒がより多く見られる。 家庭学習の習慣はなく、宿題もやらずに、提出する生徒が多く見られる。小学校の計算の積み残しも多く見られる。元素記号など単純暗記はできるが、応用・思考の問題ができない。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業前の集中力を高めるために、思考力の問題を授業前に行う。 毎日、家庭学習が習慣付けられるような課題をだす。 |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> 楽曲に対して感受することはできるが、そこからどう表現につなげていくかという学習に慣れておらず、表現に生かし切れていない。 | <ul style="list-style-type: none"> 曲の雰囲気や歌詞の内容から、自分はどう感じ、強弱や声の出し方をどうしていくと良いのか考えさせる。また、表現につなげる学習を繰り返し行うことで、工夫や表現に生かせるようにしていく。 |
| 美術 | <ul style="list-style-type: none"> 作品制作では、自由に発想し、創意工夫して計画的に進めることを定着させる。 資料集の解説を通して美術の知識も深める。鑑賞では、プレゼンテーションもを行い、コミュニケーション力を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> わかりやすく、誰でもできる内容からスタートさせ、スモールステップで学習を進める。 作品制作では、完成後十分な鑑賞とプレゼンテーションの時間を確保する。常に授業規律が守られるように指導を継続していく。 |
| 保健体育 | <ul style="list-style-type: none"> 体を動かすことに対して、言葉を掛け合いながら楽しく取り組むことができるが、指示を聞く・理解することについて苦手な生徒も多くみられ、人任せにしてしまい、自ら考え疑問に思ったことを伝えるなど、コミュニケーションをうまく取れないようである。 | <ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードや学習カードを利用し、指示を耳だけでなく、文字や図でも伝えられるようにする。 リーダーとなれる存在の生徒を必ず一人配置したグループ活動を行い、どんなことでも気付いたことや意見を出し合わせ、コミュニケーションを深めながら自分たちで課題の発見や改善ができるようにする。 |
| 技術・家庭 | <ul style="list-style-type: none"> 技術では、理解力の差が大きく、作業の進め方に個々の力量の差が生じ、全体指導に影響を及ぼしている現状がある。 家庭では、技術の習得と定着ができていないので、基礎・基本の定着を心掛けた学習内容にする。 | <ul style="list-style-type: none"> 具体的な例を挙げながら説明し、作業においては安全で正しい工具・機械の使い方を実演し、注意点を説明する。失敗してもやり直せる体制を作る。 実践的・経験的な学習活動を多く取り入れられる工夫をする。 |
| 外国語（英語） | <ul style="list-style-type: none"> 自分や他者について、英語を使い表現する上での基礎知識が身に付いていない生徒がみられる。 1年の既習事項が定着していない生徒がみられる。 | <ul style="list-style-type: none"> 既習事項について意識させ、音読練習や対話活動を中心に基本文の定着を図る。また小テストを実施し、基礎力の定着につなげる。 |

| | 課題分析 | 授業改善策 |
|--------|--|--|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢字の知識が乏しい生徒が多い。 ・書字が苦手であり、文章を組み立てることも苦手である。 ・文章を読むだけでは内容理解につながらない生徒も多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎時間漢字の時間を設け、3回ごとに小テストを実施し、その小テストと同範囲を定期考査でも実施する。 ・構成から文章を作成する流れを毎学期行う。 ・スピード音読で速く読めるようする。教科書以外の物語での1冊読みを実施する。 |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲・態度については、社会的事象に関する関心を向上させる工夫が必要である。 ・社会という教科の特性は、新たなものが次々と加えられていくことである。歴史は積み重なっていき、政治、経済は常に変化している。そのようなことに関心をもつために、教員が実物資料を多く用意したり、タイムリーなニュースを準備したりして、社会的事象に関して、関心を高めることを考えていきたい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動等による話し合い活動を取り入れ、課題解決型学習に取り組む。 ・常に年表や時代の流れを意識できる資料等を明示し、時代の流れを意識させる。特に近現代の部分の整理を心がける。 ・政治経済の様々な事象について、時事的な事柄や統計資料を活用する。授業の中で、資料を読み取り、そこから考えられる問題点を見つけ出し、解決策を考えさせる機会を増やす。 ・小テスト、単元テストを実施し、確実に知識を定着させる。 |
| 数学 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒によって習熟度に差がある。 ・基礎的な計算でつまづく生徒は少なくなったが、複雑な計算での正答率が低くなる。 ・見たことのない問題に対して、あきらめてしまう生徒が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度に合わせた授業展開や課題の設定を行う。 ・授業初めに、計算問題を繰り返し取り組ませていく。 ・問題に対するアプローチを明確にし、本質的に同じように解いていくことができるよう理解を促す。 |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度は、生徒同士の対話は活発であるが、積極的に発言する生徒はいつも決まっている。 ・実験の授業では、理解度に差があるためか、実験の取り組みや考察に差がある。また、昨年同様、計算問題や思考問題に対する苦手意識が強い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識の強い単元や内容は、授業内での繰り返しの復習や、小テストの実施、宿題で演習を行わせる。 ・対話が活発であることを強みに、対話の活動を多く取り入れる。 |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> ・楽曲に対して、感受することはできるが、そこからどう表現につなげていくかという学習に慣れておらず、表現に生かし切れていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・曲の雰囲気や歌詞の内容から、作詞者や作曲者のメッセージを考え、自分はどう感じ、強弱や声の出し方をどうしていくと良いのか考えさせる。また、表現につなげる学習を繰り返すこと、工夫や表現に生かせるようにしていく。 |
| 美術 | <ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学んだ学習を総括しながら、美術文化への興味と創造的な能力を更に高め、生涯に渡り美術を愛好する心情と心豊かな生活ができる態度を養う。 ・卒業後の進路を踏まえ、授業規律も徹底する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく、誰でもできる内容からスタートさせ、スモールステップで学習を進める。作品制作では、完成後十分な鑑賞とプレゼンテーションの時間を確保する。 ・常に授業規律が守られるように指導を継続していく。 |
| 保健体育 | <ul style="list-style-type: none"> ・男女仲が良く、活発に学習に取り組む事ができる。説明などを聞き取り、自ら調べ考えて取り組もうとすることが苦手で、力を出し切れていないところがある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習を中心とし、課題や欠点の確認や指摘された内容をグループ内で共有することで、自らの取り組みを確認できるようにし、解決策や方法を導かせる。いろいろな意見のやり取りで、コミュニケーションを深めさせ、多角的な見方ができるようにする。 |
| 技術・家庭 | <ul style="list-style-type: none"> ・技術では、プログラミングの授業では、生徒の能力や理解力の差が大きく、時間をかけて繰り返し指導していくことが必要である。 ・家庭では、自ら工夫し、創造していく力を高めるよう促していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・HTMLとCSSを活用して、生徒が興味を持ちそうなホームページの制作を通してプログラミングの能力や理解力を深めさせていく。 ・生徒の状況に応じた題材を選び、作業内容を順序立てて進めるようにする。 |
| 外国語（英） | <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を使って即興で話すことに困難を覚える生徒が見られる。 ・今までの学習の知識が定着していない生徒が見受けられる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項について意識させ、音読練習や対話活動を中心に基本本文の定着を図る。また小テストを実施し、基礎力の定着につなげる。 ・多くの場面で、英語でコミュニケーションをとれるように、多様な場面設定での対話活動を増やしていく。 |